

6 子どもの体力向上に関する調査研究

研究代表者 笹井 宏益（生涯学習政策研究部 総括研究官）

①研究の趣旨，ねらい

〔政策立案上の趣旨，ねらい〕

近年，社会環境や生活様式の変化は運動の機会の減少や生活習慣の変化などを招き，子どもたちの心身の発達に様々な影響を与えている。特に，子どもの体力・運動能力は長期的に低下傾向にあり，今後，さらなる社会変化が予想される中，個々人が生涯にわたって充実した生活を送り，明るく活力ある社会を形成していくに当たり，次代を担う子どもたちの生きる基礎となる体力が低下傾向であることは極めて憂慮すべきことである。このため，子どもの体力向上推進事業を実施し，子どもの体力向上や望ましい生活習慣の形成を目指す。

〔調査研究上の趣旨，ねらい〕

調査研究上の目的として，1年ごとの調査を3年間継続して行い，その推移を見ることで，①子どもの体力・運動能力がどのくらい向上したか，②子どもの生活習慣がどのくらい改善したか，③保護者の運動や生活習慣に関する意識がどのくらい改善したか，④教員の意識がどのくらい改善したか，をそれぞれ明らかにする。

②研究成果の概要

次に掲げる項目について定量的に把握。

〔子どもに関する研究成果〕

- 子どもの体力の状況
- 子どもの運動習慣や生活習慣の状況
- 運動することによる子どもの生活全般に対する波及効果

〔保護者に関する研究成果〕

- 保護者の体力・健康意識
- スポーツ等をとおして保護者の子どもへの関わり方
- 運動することによる保護者の生活全般に対する波及効果

〔教員に関する研究成果〕

- 教員の体力・健康意識
- 教員からみた子どもの変化

[子どもや保護者の体力・健康意識等にかかる経年変化に関する研究成果]

- 上記にかかる調査を，全国各地に指定された42ヶ所の「実践地域」について3年間にわたって実施，子ども，保護者，教員それぞれの経年変化を測定し運動の効果を考察

[プログラム実施の相違に関する研究成果]

- 実際に体力向上プログラムを実施する「実践校」と，そのプログラムを実施しない「協力校」を設定，両者の体力・運動能力等に関わる調査結果を比較検討することで，実践プログラムの効果を考察

③中期目標との関連性

- 目標1－(2)に記載する「児童・生徒・学生や教員，学校の実態等の把握とその分析に関する調査研究の実施」に該当
- 目標1－(3)に記載する「定点調査等による教育に関する社会の動向把握とその分析に関する調査研究の実施」に該当
- 生涯学習政策研究部の活動目標の「目標1」に記載する「国民の興味関心の所在や学習活動等の実態の把握」に該当

④本研究に盛り込まれている主なデータ項目

このたびの調査研究をとおして，次に掲げるデータを取得

[子どもに関するデータ]

- 子どもの体力の状況（新体力テスト）
- 子どもの運動習慣や生活習慣の状況（生活実態調査）
- 運動することによる子どもの生活全般に対する波及効果（生活実態調査）

[保護者に関するデータ]

- 保護者の体力・健康意識（生活実態調査）
- スポーツ等をとおして保護者の子どもへの関わり方（生活実態調査）
- 運動することによる保護者の生活全般に対する波及効果（生活実態調査）

[教員に関するデータ]

- 教員の体力・健康意識（生活実態調査）
- 教員からみた子どもの変化（生活実態調査）

[子どもや保護者の体力・健康意識等にかかる経年変化に関するデータ]

- 上記にかかる調査を，全国各地に指定された42ヶ所の「実践地域」について3年間にわたって実施，子ども，保護者，教員それぞれの経年変化を測定し運動の効果を考察（上記の調査結果の経年変化を比較分析）

[プログラム実施の相違に関するデータ]

○実際に体力向上プログラムを実施する「実践校」と、そのプログラムを実施しない「協力校」を設定，両者の体力・運動能力等に関わる調査結果を比較検討することで実践プログラムの効果を考察（上記の調査結果を「実践校」と「協力校」に分けて比較分析）

※（カッコ内はデータ取得に利用した調査の名称又はデータ取得に至る分析方法）

⑤今後の研究予定

○平成18年度をもって終了

⑥キーワード

(1) 体力…………… (2) 運動能力…………… (3) 生活習慣
(4) 運動欲求…………… (5) 運動経験…………… (6) 運動意欲
(7) 運動習慣…………… (8) スポーツ……………

⑦本研究の研究報告書

○子どもの体力向上推進事業報告書（平成18年3月 文部科学省）

⑧関連する先行研究や参考となる研究等

○特になし